

GLORY writes a new STORY



グローリー株式会社

2026年3月期 通期 決算説明資料

2026年5月15日

[説明者]

- ・代表取締役社長 原田 明浩
- ・取締役 IR担当役員 藤田 知子

-
- 1** | **・決算ダイジェスト**
・企業価値向上への取り組み
代表取締役社長 原田 明浩

-
- 2** | **・2026年3月期実績および**
2027年3月期予想の概要
取締役 IR担当 藤田 知子

1 決算ダイジェスト

代表取締役社長 原田 明浩

※ご説明に先立ち

2026年3月期の期末決算よりIFRSを適用した関係上、
本資料内における過去からのトレンド分析や数値につきまして、
一部 **日本会計基準** にて記載している箇所がございます。
何卒ご理解賜りたく、宜しくお願い申し上げます。

「2026年3月期 決算ダイジェスト」

説明者：代表取締役社長 原田 明浩

2026年3月期の期末決算からIFRSを適用

本資料における過去からの数年にわたるトレンド分析等の数字につきましては、一部、日本会計基準を記載

2026年3月期 通期 決算ダイジェスト

※ 2026年3月期の期末決算よりIFRSを適用

GLORY

2026年3月期 通期 連結業績 結果 → 減収減益

		売上収益		のれん償却前 営業利益		営業利益		当期利益	
		前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比
IFRS 国際会計基準		3,395	-291 -7.9%	-	-	297	-123 -29.2%	153	-92 -37.2%
(概算値)	日本会計基準	3,389	-300 -8.1%	322	-116 -26.6%	234	-133 -36.3%	94	-77 -45.2%

- 減収減益も、売上収益は新紙幣対応（特別需要）前である 2023年3月期を大きく上回る
- **海外市場は、7期連続で過去最高売上収益を更新中**
- **国内市場は、前期に発生した20年ぶりの新紙幣発行対応(特別需要)からの反動減により減収減益も、想定内**

2027年3月期 通期 連結業績 予想 → 増収増益 を見込む

		売上収益		のれん償却前 営業利益		営業利益		当期利益	
		前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比
IFRS 国際会計基準		3,600	+205 +6.0%	-	-	320	+23 +7.6%	200	+47 +30.0%
(概算値)	日本会計基準	3,600	+211 +6.2%	362	+40 +12.4%	280	+46 +19.7%	145	+51 +54.3%

- **海外市場は、製品・サービスの販売拡大により、さらなる成長を見込む。** 事業運営コストの最適化により利益率の向上を目指す
- **国内市場は、金融、流通・交通を中心に特別需要の反動減から業績回復を見込む**

決算ダイジェスト

企業価値向上への取り組み

FY2025業績およびFY2026予想

データセクション

4

「2026年3月期 通期 決算ダイジェスト」

（画面上段）2026年3月期は減収減益（IFRS）

- ・売上収益 **3,395億円**（前期比マイナス7.9%）
- ・営業利益 **297億円**（前期比マイナス29.2%）
- ・当期利益 **153億円**（前期比マイナス37.2%）

海外は7期連続で過去最高の売上収益

国内は前期に発生した20年ぶりの新紙幣発行に伴う特別需要からの反動減で減収減益

（画面下段）2027年3月期予想は増収増益（IFRS）

- ・売上収益 **3,600億円**（前期比プラス6.0%）
- ・営業利益 **320億円**（前期比プラス7.6%）
- ・当期利益 **200億円**（前期比プラス30.0%）

海外は大口需要も続いており更なる成長を見込む

事業運営コストを最適化し、利益率の向上も目指す

国内は金融、流通・交通ともに特別需要の反動で2026年3月期は低迷したが業績回復を見込む

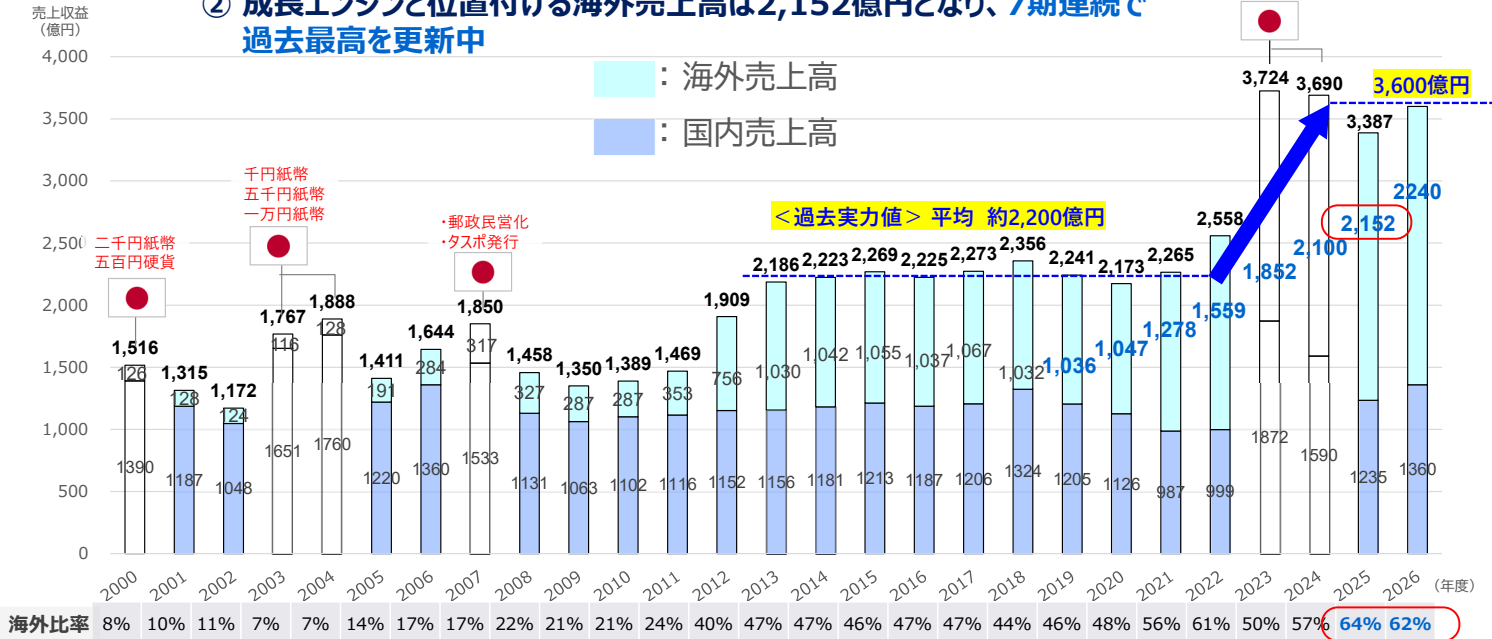
事業成長（売上収益）

当社試算に基づく概算値
＜日本基準＞

GLORY

- ＜ポイント＞
- ① 新紙幣等の特別需要がなくても、売上収高**3,500億円超**の事業規模へと成長
 - ② 成長エンジンと位置付ける海外売上高は**2,152億円**となり、**7期連続で過去最高を更新中**

千円紙幣
五千円紙幣
一万円紙幣



決算ダイジェスト

企業価値向上への取り組み

FY2025業績およびFY2026予想

データセクション

5

「事業成長」

2000年からの売上収益(売上高)を表したグラフ

2色に分類されている下が国内売上高、上が海外売上高

白抜きの日本文字のある時期は特別需要があった年で主に新紙幣・硬貨の発行に対応

特別需要を除いた平常時の事業推移を見ると、2013年頃から凡そ2,200億円で推移してきたが、

2025年度は特別需要が剥落しても3,387億円の実績となり3,500億円近くまで増加

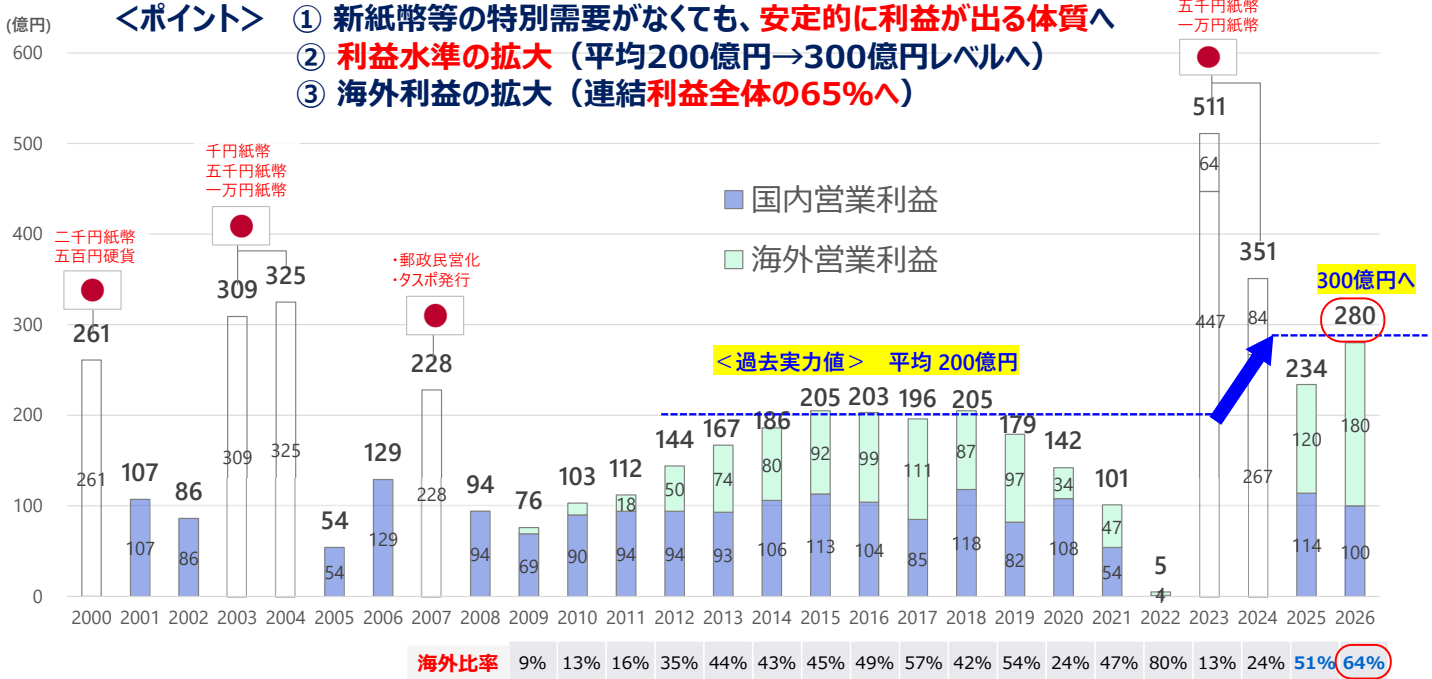
2026年度も3,600億円を予想しており、実力値は3,500億円くらいまで引き上げる

特に海外の成長は著しく売上高比率も6割を超える

稼ぐ力の復活（営業利益）

当社試算に基づく概算値
＜日本基準＞

GLORY



決算ダイジェスト

企業価値向上への取り組み

FY2025業績およびFY2026予想

データセクション

6

「稼ぐ力の復活（営業利益）」

2000年からの営業利益を表したグラフ

分類は売上収益(売上高)と同様

特別需要があった年度は高い利益を創出

特別需要を除くと、2013年頃から200億円が平均実力値

2020年から2022年にかけての3年間は、コロナと部品供給難、セキュリティのインシデントの影響により一時的に減少

2023、2024年度の新紙幣の特別需要を経た後も営業利益は230億円、280億円となり、利益水準が拡大し、安定して利益が出る体質に変わってきた

1 | 企業価値向上への取り組み

代表取締役社長 原田 明浩

「企業価値向上への取り組み」

説明者：代表取締役社長 原田 明浩

1. 株主還元
2. PBRの推移
3. キャッシュアロケーション
4. 人的資本経営の推進
5. 株主・投資家の皆様とのエンゲージメント強化
6. 2026年度中期経営計画達成に向けたアクション

売上収益／営業利益／当期利益／ROE／ROIC／ROA

1. 株主還元

2026年3月期（実績）

利益分配に関する基本方針

- ・総還元性向100%以上
- ・累進配当
- ・DOE3.0%以上

総還元性向
126% 実施
(2026年5月13日
150億円取得終了時点**136%**)

還元状況	概要
当期利益	153億円
①配当総額	61億円 (DOE3%以上)
②自己株式取得	134億円 (2026/5/13取得終了時点150億円)
総還元額①+②	195億円 (2026/5/13取得終了時点211億円)
総還元性向	126% (2026年5月13日取得終了時点 136%)
1株当たり配当金	予定 DOE
年間配当金	112円 3.0%

2027年3月期（予想）

利益分配に関する基本方針

- ・総還元性向100%以上 **維持** (非経常的な損益は除く)
- ・累進配当 **継続**
- ・DOE**4.0%以上に引き上げ** (安定配当を強化)
- ・次期中期経営計画にて、さらなるDOE向上を目指す

還元状況	概要
当期利益	200億円
①配当総額	80億円 (DOE4%以上)
②自己株式取得	120億円
総還元額①+②	200億円
総還元性向	100% 以上
1株当たり配当金	予想 DOE
年間配当金	154円 4.0%以上

決算ダイジェスト

企業価値向上への取り組み

FY2025業績およびFY2026予想

データセクション

9

「株主還元」

（画面左側）2026年3月期実績

利益分配に関する基本方針

- ・総還元性向100%以上
- ・累進配当
- ・DOE3.0%以上

結果は、総還元性向が126%

(配当61億円(DOE3%)+自己株取得134億円/当期利益153億円)

当期利益153億円はアクレックの株式買取30億円を含む(180億円)

（画面右側）2027年3月期予想

利益分配に関する基本方針の変更、および目標追加

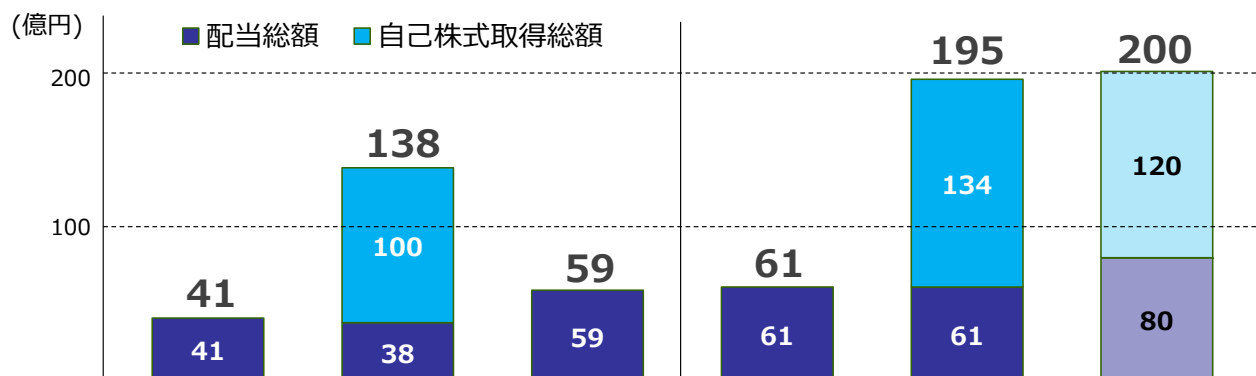
- ・DOE4.0% (前年度まで3.0%以上)
- ・次期中期経営計画ではさらなるDOEの向上を目指す

総還元性向は100%以上

(配当総額約80億円(DOE4%) + 自己株式取得120億円/当期利益200億円)

当期利益200億円は構造改革費用17億円、首都圏オフィス移転費用10億円等、一時的に発生する費用27億円を差し引いた後の予想値。一時的な費用がなければ227億円を予想。

1. 株主還元



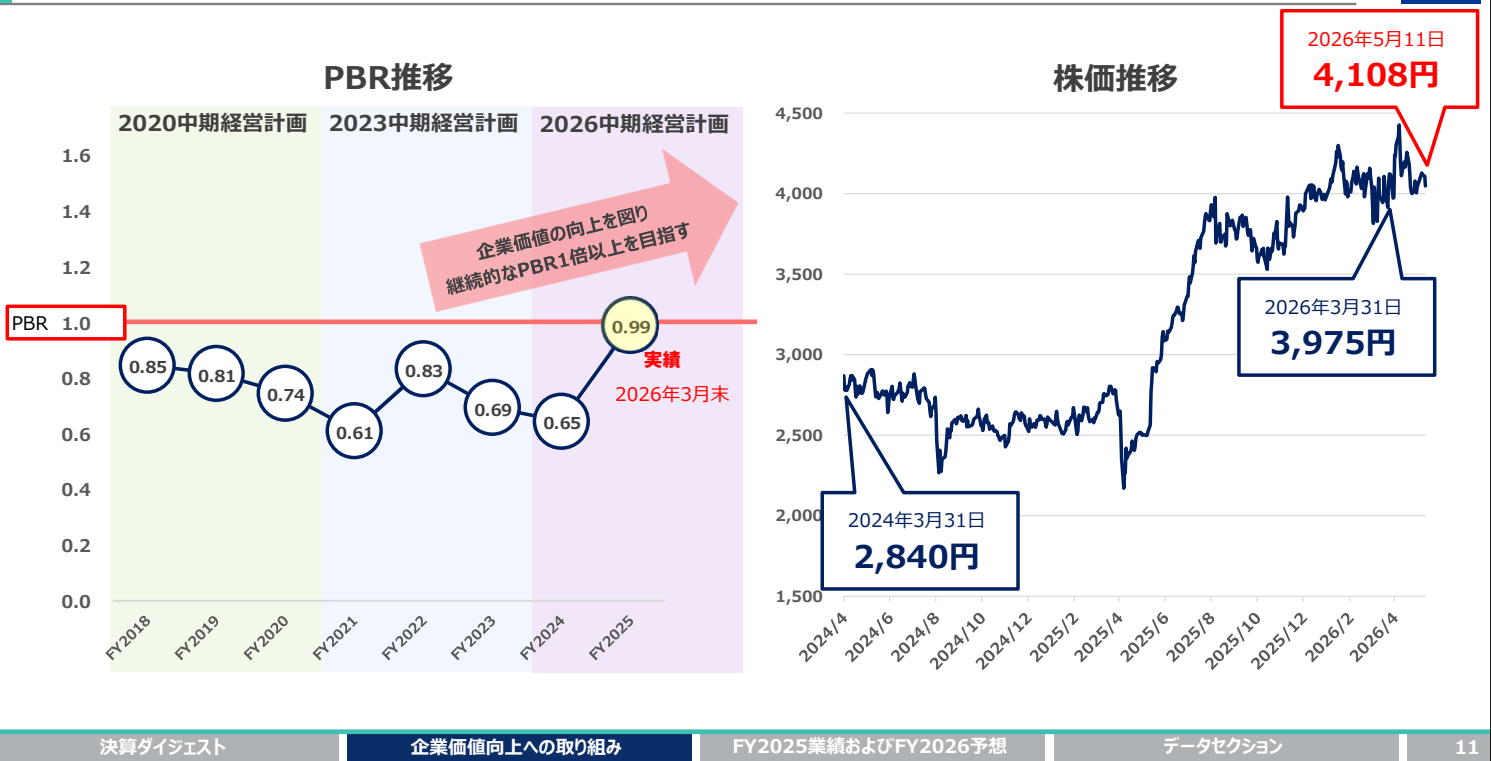
	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期	2027年3月期(予想)
株主総利回り	88.6%	124.4%	126.4%	122.2%	155.6%	-
TOPIX(配当込み)	102.2%	105.8%	141.3%	98.5%	134.6%	-
機械セクター(配当込み)	96.2%	108.6%	146.2%	95.7%	150.0%	-
総還元性向	35.4%	-%	16.0%	37.6%	126.4%	100.0%以上
最高株価	2,615円	2,975円	3,232円	2,929円	4,299円	-

「株主還元」

2022年3月期からの配当総額と自己株式取得総額の推移グラフ

株主総利回りはご覧のように推移

2. PBRの推移



決算ダイジェスト

企業価値向上への取り組み

FY2025業績およびFY2026予想

データセクション

11

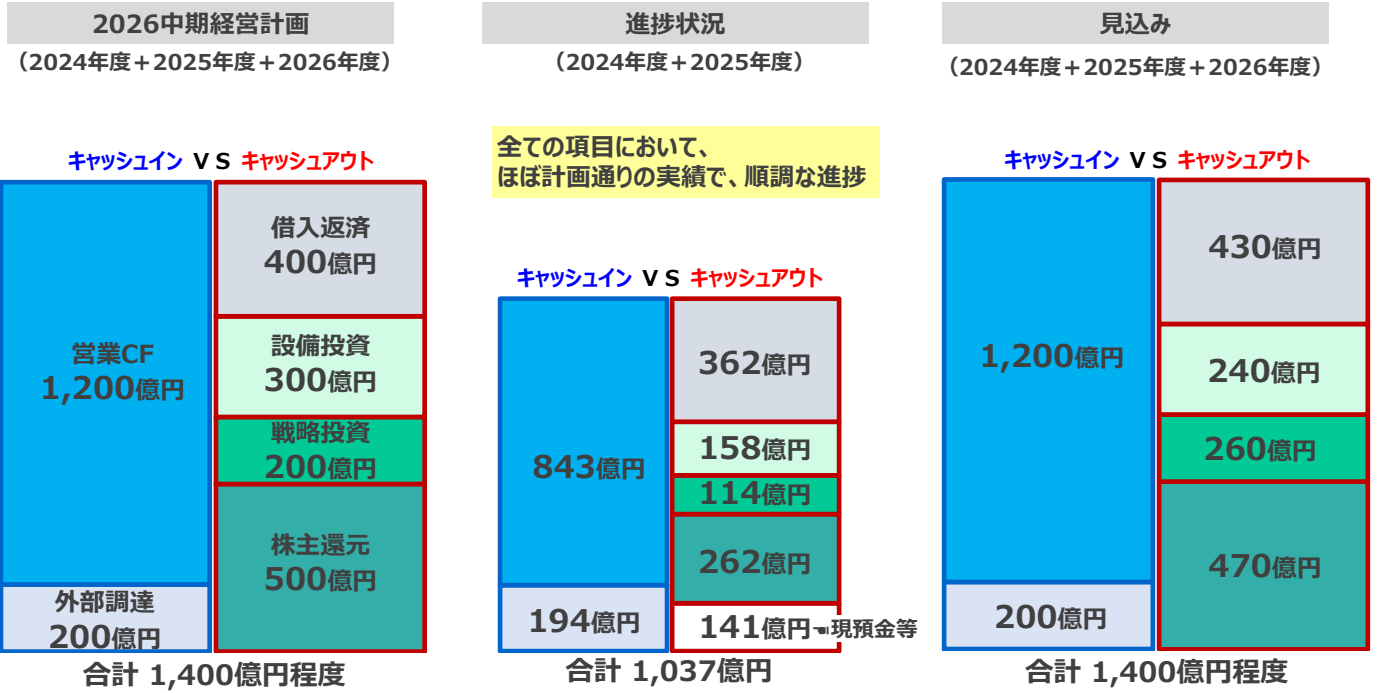
「PBRの推移」

事業の改善そのもの、並びに株主還元も含めて、PBR1倍超えに取り組む

3月31日時点ではPBRは0.99倍、ほぼ1倍の水準まで改善

株価は2026中期経営計画がスタートした2年前と比較すると1,135円上昇し、直近では4,000円を超える

3. キャッシュフローロケーション



決算ダイジェスト

企業価値向上への取り組み

FY2025業績およびFY2026予想

データセクション

12

「キャッシュフローロケーション」

(左側) 2026中期経営計画 公表値

(中央) 2026年3月期までの2年間の実績

ほぼ実績通り推移

(右側) 2027年3月期までの3年間の見込み

ほぼ計画通り着地予定

4. 人的資本経営の推進

中期経営計画の達成に向けて、新領域事業／海外事業の拡大を実現する人材戦略を推進

DX推進	DX教育の実施	専門選抜研修を 13人、全社研修を 3,389人が修了 > 新領域事業の企画・開発部門を中心とした、DXソリューションの創出強化
	資格取得奨励金の拡充	DX領域のスキル獲得への報奨を充実 > リスキングの意欲醸成により、新領域事業の拡大を加速
グローバル化	グローバル人材の育成	短期留学制度を 3人が活用 > 2026年度より海外インターン制度も実施し、実践的な人材開発を推進
	海外でIT人材の採用	ベトナムにて45人採用（2023年～2025年）インド、ルーマニアでも人材強化 > ITスキルを持つ人材を中心に海外で積極採用し、ソフトウェア事業を強化
人材獲得 キャリア開発	新卒採用の強化 > 学生向けインターンシップの実施期間や対象事業所の拡大による 内定承諾率の向上	社内インターン制度 > 36人が活用。 視野拡大や派遣先との相互啓発を推進
	キャリア採用強化 > キャリア人材率 34%（25年度入社）	キャリアチャレンジ制度 > マッチングを実施し、 5名が異動
エンゲージメントの向上	社内コミュニケーションの活性化を通して、「グローリーの一員である」ことへのロイヤリティを醸成 > 低水準な離職率を維持（2025年度 4.3%）	

決算ダイジェスト

企業価値向上への取り組み

FY2025業績およびFY2026予想

データセクション

13

「人的資本経営の推進」

中期経営計画の達成に向けて、新領域事業／海外事業の拡大を実現する人材戦略を推進

（取り組む項目）

- ・DX推進
- ・グローバル化
- ・人材獲得・キャリア開発
- ・エンゲージメントの向上

DXについては、専門選抜研修と全社研修を含めて、多くの社員に研修を行ってスキルを上げる（資格取得含む）

海外収益拡大に伴いグローバル人材育成、採用を強化

5. 株主・投資家の皆様とのエンゲージメント強化

- ・ 継続的な対話を通じて得た示唆を経営に反映
- ・ 企業価値向上に向けた施策を進化

株主・投資家との対話状況（2025年度）

活動内容	実績	対応者
決算説明会	4回	代表取締役社長、経営戦略本部長
証券会社主催 カンファレンス	2回	代表取締役社長、経営戦略本部長
機関投資家向けIRイベント	2回	代表取締役社長、経営戦略本部長、海外/国内カンパニー長
個別取材対応/SR対話	176回	代表取締役社長、経営戦略本部長、IR担当部門

対話を踏まえて取り入れた事項

対話項目	2025年度 実績	2026年度 計画
資本政策	取締役会で実施方針を決定	・次期中期経営計画に向けた方針策定（成長投資含む）
株主還元	「総還元性向100%以上」を実行（実績：136%）	・「総還元性向100%以上」を継続 ・安定配当を重要視、DOE引上げ（3.0%→4.0%以上） ・次期2029中期経営計画にて、更なるDOEの向上を目指す
PBR1倍の達成	資本政策 × 事業戦略 にてPBR1倍水準に到達	・企業価値向上により、高PBRを目指す
キャッシュレスへの対応方針	長期成長ストーリーを策定／開示（IR Day）	・次期2029中期経営計画を策定し、長期成長ストーリーを具体化
IR活動の充実	・対話反映による統合レポートの深化 ・決算説明会や個別ミーティングを通じた情報発信	・成長ストーリーを訴求する統合レポート作成 ・社外取締役と機関投資家の座談会を実施
海外投資家 認知度向上	・欧米投資家との対話強化	・欧米投資家との対話継続強化、欧米ロードショーを実施予定
コーポレートガバナンス強化	取締役会の実効性評価を継続実施	・グループ・グローバルガバナンス態勢の強化
次世代経営層の育成	次世代経営層の育成、次世代経営陣の輩出に関するモニタリング継続	・サクセッションプランのプロセス強化

決算ダイジェスト

企業価値向上への取り組み

FY2025業績およびFY2026予想

データセクション

14

「株主・投資家の皆様とのエンゲージメント強化」

株主・投資家・アナリストの皆様とのエンゲージメントを強化

資本政策の議論を取締役会で伝達

株主還元についても、皆様の声をお聞きして反映

キャッシュレスへの対応については、長期成長ストーリーを昨年12月に開示

キャッシュレスが進行しても大丈夫かという声に対応

IR活動の拡充については、社外取締役と投資家・アナリストの皆様との座談会を実施

6. 2026中期経営計画達成に向けたアクション

2026中期経営計画 KPI達成のための アクション マトリクス	KPI			
	当期利益 シナジー 高収益化 為替影響	ROE 還元強化 負債水準	ROIC 資金効率	ROA 総資産 B/Sスリム化
1. 買収企業とのシナジーによる収益拡大の早期実現	●	●	●	●
2. 成長エンジンと位置付ける米州事業の高収益化を実現	●	●	●	●
3. グローバルでの為替リスク管理強化による為替影響の極小化	●			
4. 株主還元の強化		●	●	●
5. 最適資本構成を踏まえた負債水準の検討		●		
6. 事業ポートフォリオ最適化			●	
7. 棚卸資産や売掛債権等、運転資金の圧縮による効率性の改善			●	
8. 運転資金の圧縮と株主還元強化による総資産の適正化				●
9. 棚卸資産や売掛債権等、運転資金の圧縮によるB/Sのスリム化				●

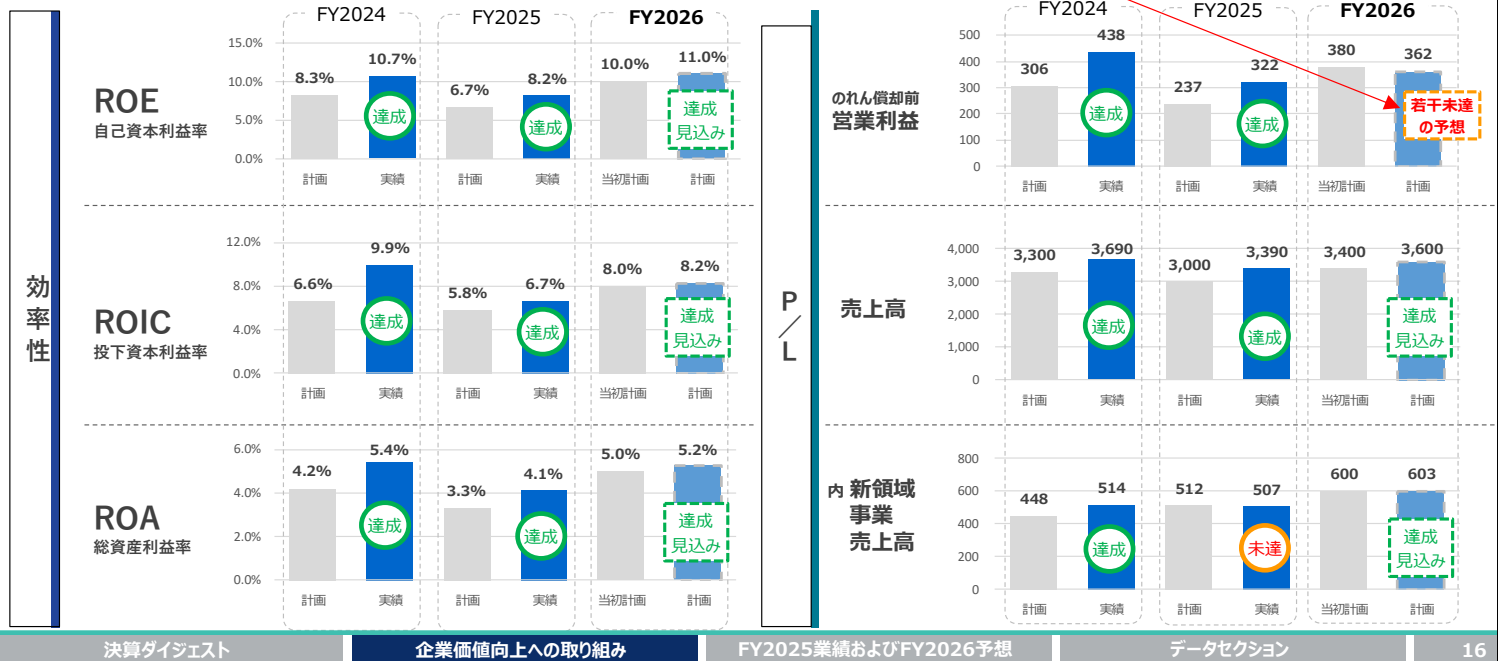
「中期経営計画のKPIに向けたアクション」

2026中期経営計画のKPI進捗 (サマリー)

当社試算に基づく概算値
 <日本基準>

GLORY

- ・ 中期経営計画の2年目(2025年度)まで、各項目とも ほぼ計画通りに進捗
- ・ 最終年度となる2026年度は、営業利益のみ若干目標に届かない予想



決算ダイジェスト

企業価値向上への取り組み

FY2025業績およびFY2026予想

データセクション

16

「2026中期経営計画 KPI進捗」

(画面左側) 効率性関連項目

- ・ ROE
- ・ ROIC
- ・ ROA

(画面右側) PL関連項目

- ・ のれん償却前の営業利益
- ・ 売上高
- ・ 新領域事業売上高 (非現金分野)

2024年度と2025年度はほぼ達成

最終年度は、右上の営業利益だけが未達の見込み

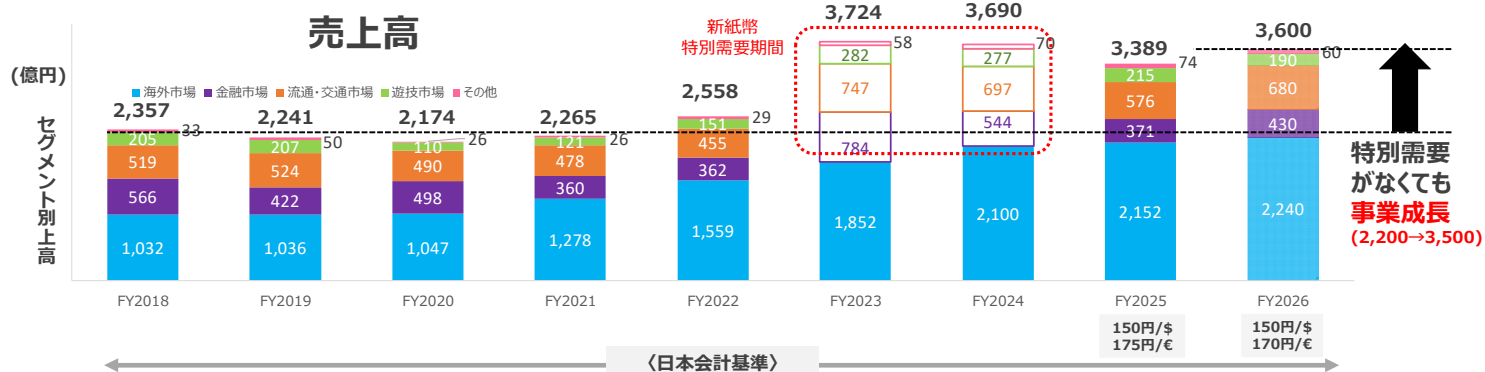
380億の計画に対して362億円を計画 (日本会計基準)

首都圏のオフィスの再編で10億円、構造改革で17億円等、一過性の費用を含めた計画なので、これがないと380億円を超えた計画でスタートできた

事業成長（売上高成長）

当社試算に基づく概算値
〈日本会計基準〉

GLORY



2025年度のアクションと成果

2026年度のアクション

国内	海外	新領域
<p>流通・交通市場において人手不足を背景としたセルフ化ニーズを捉えた売上の拡大 > つり銭機の未導入店舗への販売拡大や新店オープン時の導入を獲得</p>	<p>注力市場であるリテール市場と飲食市場を拡大 > リテール市場は拡大したものの、飲食市場は投資延伸の影響を受け、拡大が進まず</p>	<p>Flooid やAcrelecのソリューションを加速 > 大手顧客の投資判断による延伸や新規顧客の獲得が伸びず</p>
△	○	×
<p>・金融：プラス金利を背景とした旺盛な設備投資を確実に獲得 ・流通交通：人手不足や人件費高騰を背景としたセルフ化需要に対応し、レジつり銭機などの販売拡大を見込む</p>	<p>・金融：業務効率化に対応したセルフ型ロビー機の拡販を見込む ・リテール：セルフ化・厳正化ニーズに対応した現金管理ソリューションの拡販を進める</p>	<p>・Flooid：営業体制の強化により、新規顧客開拓を加速 ・Acrelec：主要顧客へのセルフサービスキオスクの販売を進める</p>

決算ダイジェスト

企業価値向上への取り組み

FY2025業績およびFY2026予想

データセクション

17

「事業成長（売上高成長）」

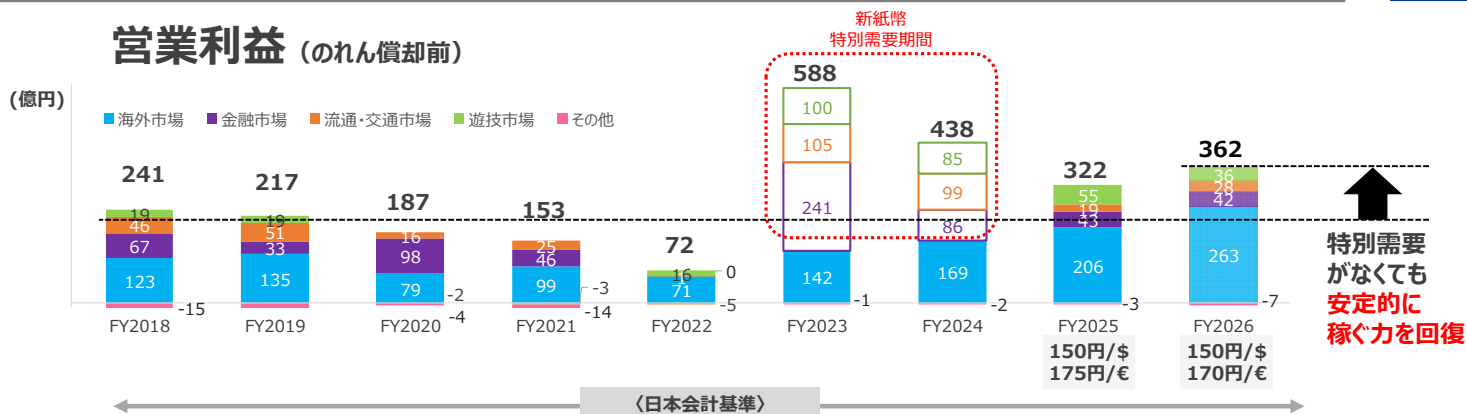
先ほどとほぼ同じ内容ですので説明は割愛

過去からの推移を見ると特別需要が終わっても事業は成長

営業利益（稼ぐ力）の向上

当社試算に基づく概算値
＜日本会計基準＞

GLORY



	2025年度のアクションと成果	2026年度のアクション
国内	<ul style="list-style-type: none"> 原材料費や人件費高騰による原価アップを販売価格へ転嫁し、利益率を確保 	○ 主要製品の更新需要の復調によるプロダクトミックスの改善により、利益回復を目指す。
海外	<ul style="list-style-type: none"> 米州におけるシステム統合によるオペレーションの効率化によって、利益率を改善 	○ 構造改革による効率化を推進し、利益率向上を目指す
新領域	<ul style="list-style-type: none"> 新領域事業を担うアクレック社・フルイド社は、利益が計画を下回った 	× 事業成長を軸に、利益回復を目指す

決算ダイジェスト

企業価値向上への取り組み

FY2025業績およびFY2026予想

データセクション

18

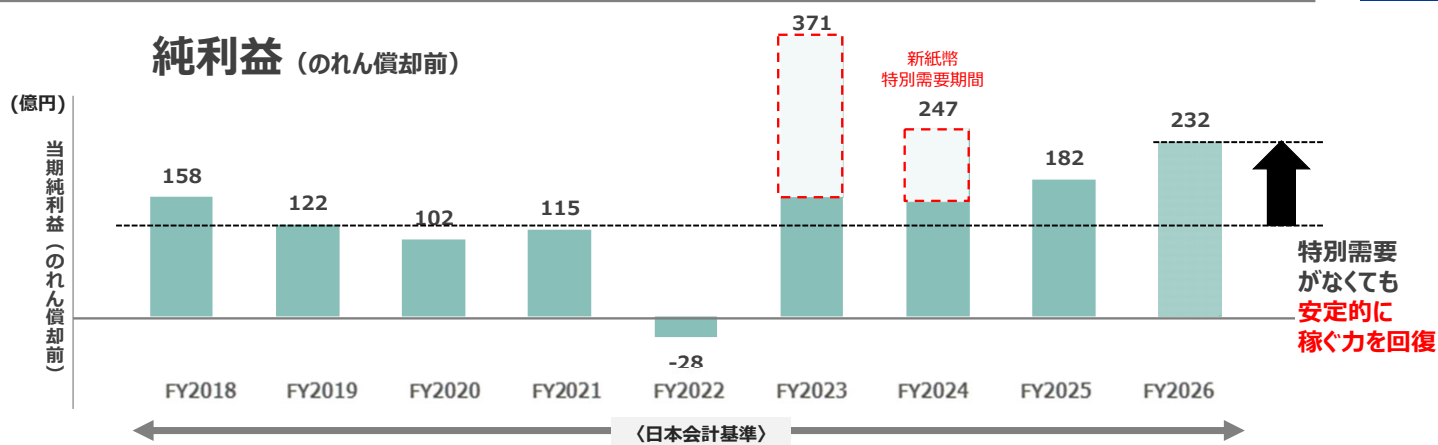
「営業利益（稼ぐ力）の向上」

特別需要が終わり、いよいよ安定して稼ぐ力が付いてきた

純利益の向上

当社試算に基づく概算値
 <日本会計基準>

GLORY



2025年度のアクションと成果	2026年度のアクション
グローバルでの為替リスク管理強化による為替影響の極小化 > 海外子会社を含めたグローバルベースでの為替リスクヘッジを行い、為替差損益を抑制	○ グローバルベースでの為替リスクヘッジの範囲を拡大し、対象となる通貨ペアを増やすことでより効果的なヘッジを実行
借入金の削減に伴う、支払利息の減少	○ 適正な負債水準を維持

決算ダイジェスト

企業価値向上への取り組み

FY2025業績およびFY2026予想

データセクション

19

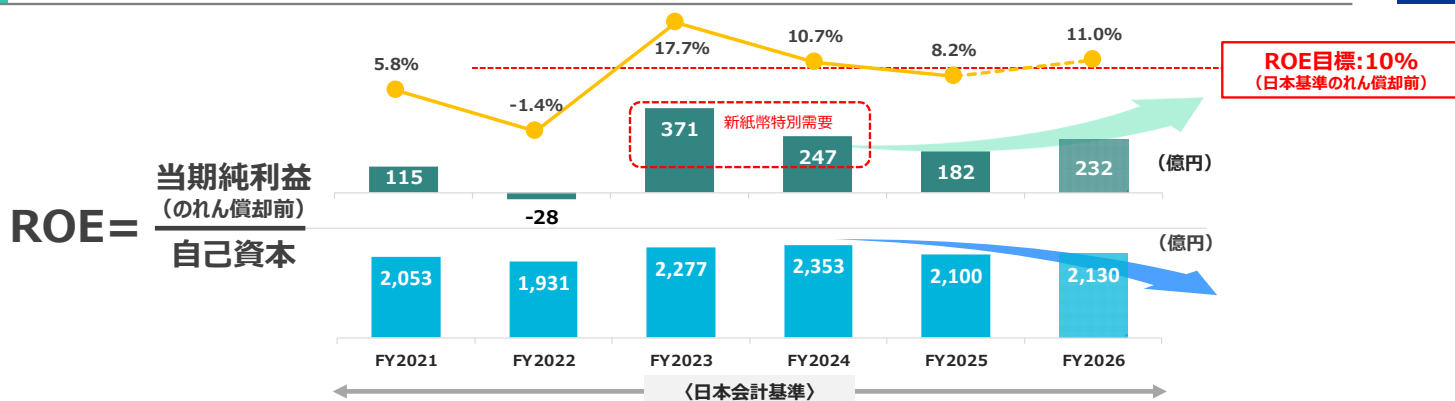
「純利益の向上」

説明は営業利益と同様

ROEの向上

当社試算に基づく概算値
〈日本基準〉

GLORY



	2025年度のアクションと成果	2026年度のアクション
配当の強化	<ul style="list-style-type: none"> 累進配当及びDOE 3%以上の配当方針に基づき増配 年間配当総額: 61億円 	<ul style="list-style-type: none"> 累進配当の継続、及びDOE 4%以上に配当方針を変更し、年間配当総額 80億円を予定 次期中期経営計画期間においては、さらなるDOE向上を目指す
自己株式取得による自己資本の削減	予定通り完了 (150億円)	・120億円 (上限) の自己株式取得を計画
負債水準		
自己資本比率	48.1% (2026年3月末/日本会計基準)	・50%程度 (2026中期経営計画の目標水準) を維持
D/Eレシオ	0.41倍 (2026年3月末/日本会計基準)	・0.6以下 (2026中期経営計画の目標水準) を維持

決算ダイジェスト

企業価値向上への取り組み

FY2025業績およびFY2026予想

データセクション

20

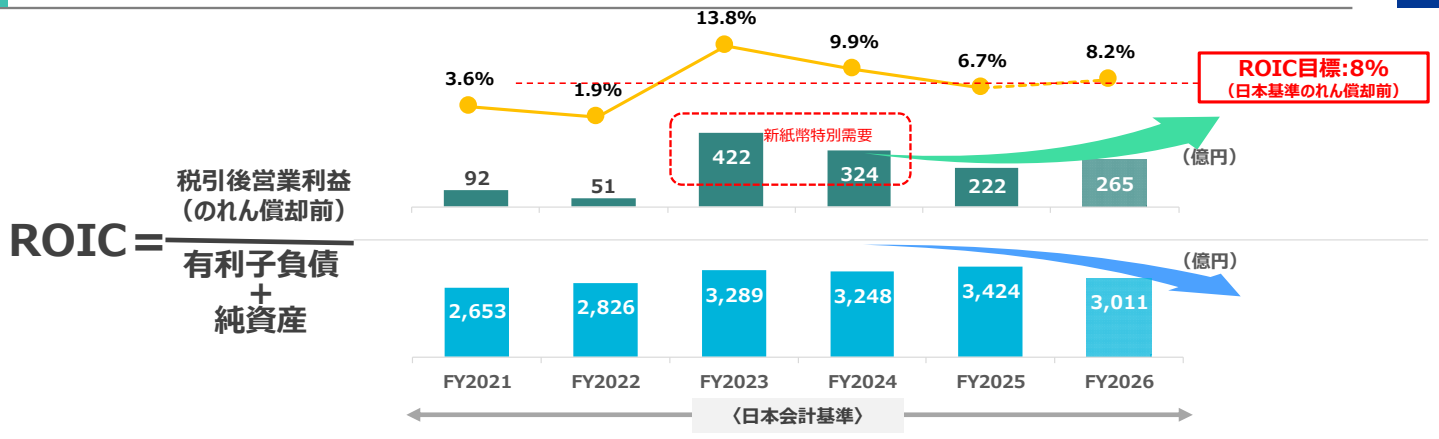
「ROEの向上」

日本会計基準ののれん償却前営業利益率で10%を目指す活動を展開
今年度の終了時には目標を超えることを目指す

ROICの向上

当社試算に基づく概算値
＜日本基準＞

GLORY



資金効率の改善	2025年度のアクションと成果	2026年度のアクション
売掛債権	順調に債権を回収し、前期比77億円削減	○ 適正な債権回収を実施
棚卸資産	販売が進み、前期比50億円削減	○ 適正在庫を維持

決算ダイジェスト

企業価値向上への取り組み

FY2025業績およびFY2026予想

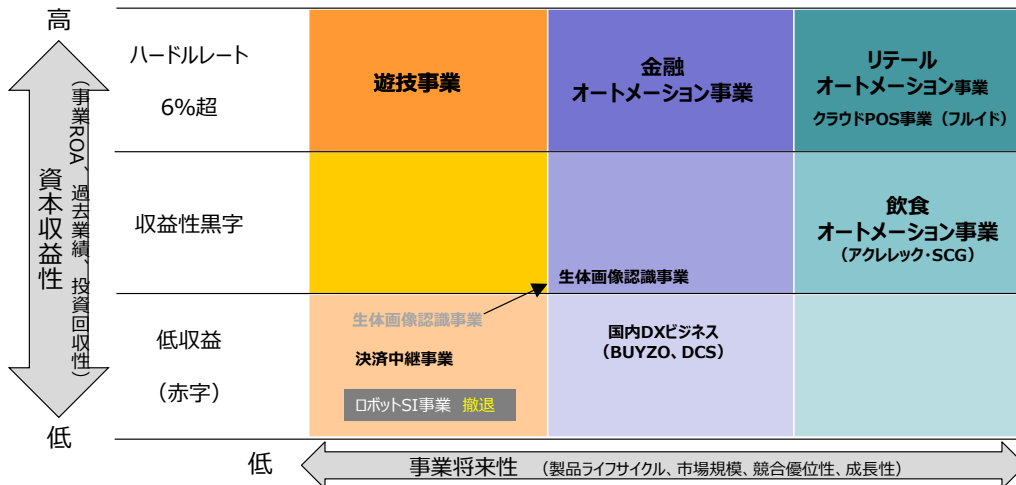
データセクション

21

「ROICの向上」

計算式の分子は稼ぐ力の拡大、分母では売掛債権の早期回収や棚卸資産の削減等を進めている

事業ポートフォリオの最適化



事業ポートフォリオの最適に向け、ターゲット事業を絞り込み、各々について改善策を進めているものの、ハードルレートを超える成果に結びつくまでには時間がかかる見通し (中期スパンでの改善)

	2026年3月期		方向性 および 進捗状況
6-1. 縮小・撤退	ロボットSI事業	撤退	利益改善見通し立たず、事業撤退を意思決定。 撤退済み
	決済中継事業	改善スキーム策定	改善スキームを策定して、利益改善プロセスを推進中
	中国事業	撤退	利益改善見通し立たず、撤退を意思決定。 販売会社である 現地法人を清算完了 (2025年8月)
6-2. 改善	画像ソリューション (生体画像認証事業)	市場拡大	流通市場、新領域事業顧客への積極展開 (JRAの入退場管理など)
	国内DXビジネス	事業ピボットの進行	データコネクティングサービスの人的リソースを強化し、展開のスピードアップを実施中

決算ダイジェスト

企業価値向上への取り組み

FY2025業績およびFY2026予想

データセクション

22

「ポートフォリオの最適化」

取り組みをしているが、まだなかなか大きな実績が出るところまで来ていない

図の一番下の低収益・赤字事業の黒字化を実現し、ハードルレートを超えるまでの取り組みをしているが、短期では成果が出ておらず、中期スパンでの改善になる

現時点での進捗状況

(縮小・撤退)

- ・ロボット事業・・・撤退を決め撤退作業を実施中。
- ・決済中継事業・・・赤字を出しているが改善策を策定しプロセスを推進中
- ・中国事業・・・ 利益改善を模索したが見通しが立たず撤退を決定。現地法人の販売会社の清算が完了

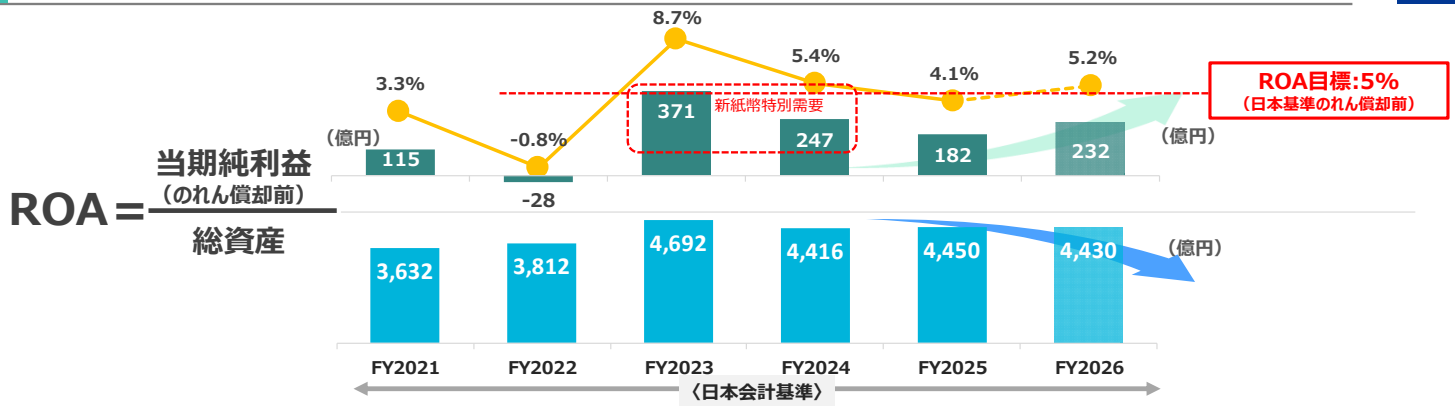
(改善)

- ・画像ソリューション (生体認証画像認証)
 - ・・・顔認証を使った新しい事業を模索。新規顧客を開拓中
 - トピックス： JRAが運営する競馬場の入退室にご採用いただき本格的な導入が始まっている
- ・国内DXビジネス
 - ・・・データコネクティングサービス等に人的リソースを投下して、早く事業が立ち上がるように推進しているが、大きな成果までには至っていない。継続的に取り組みを進めている

ROAの向上

当社試算に基づく概算値
＜日本基準＞

GLORY



総資産の適正化 B/Sのスリム化	2025年度のアクションと成果	2026年度のアクション
現預金	余剰資金を削減し、適切な水準を維持	○ コミットメントライン の活用等により効率化を推進 <ul style="list-style-type: none"> 目的：機動的かつ安定的な資金調達手段の確保による、財政基盤のより一層の強化 借入限度：150億円 契約締結日：2026年3月31日
売掛債権	債権回収を着実に進行	○ 適切な債権管理を推進
総資産合計	前期比で増加	× 棚卸資産や売掛債権の削減を推進

決算ダイジェスト

企業価値向上への取り組み

FY2025業績およびFY2026予想

データセクション

23

「ROAの向上」

純資産の適正化、BSのスリム化を推進

分子はROEと同様

分母は、現預金の項目ではコミットメントラインを金融機関様と新たに契約。必要な時に即時借入ができる仕組み。余剰な資金を持たず機動的に活用できる体制を構築

米国による通商政策の動向、中東地域における地政学的リスクの高まり、それを発端とするサプライチェーンの混乱による資材の調達難、原油価格の高騰ならびに石油由来原材料の価格上昇等の不確実性につきましては、現時点においてその影響額を合理的に算定することが困難な状況にあります。

業績予想

影響については現在精査中であり、2027年3月期の業績予想数値には当該影響を織り込んでおりません。
当該影響の詳細が判明し、開示すべき事項が生じた場合には速やかにお知らせいたします。

「地政学的リスクの影響」

米国による通商政策の動向や中東地域における地政学リスクが高まる。特に原油、ナフサの入手の不確実性や、事業計画に与える影響につきましては、業績予想に織り込んでいない。影響額が分かり次第、速やかに開示。

現況)

塗装に使うシンナーがほとんど入手できず非常に苦労している。何とか2カ月先ぐらいまでの目途がつき製品の塗装はできているが、その先の確約がなかなかいただけない。例えば、来月になると、もう1カ月分先の見通しをいただける。毎月、そんな状況となり非常に苦労している

また、製品の梱包用のビニール、ナイロンも非常に入手難

プラスチックの樹脂材料の入手も非常に不透明。サプライヤーからは2カ月先までの供給は約束いただいているが、その先は確約できないとの回答

一部のサプライヤーからはフォースマジュール宣言（入手難は戦争によるものなので法的責任を負いません）のレターも届きはじめておりまして、非常に厳しい状況が継続している

グローリーの対応)

4月1日より、調達のスペシャルプロジェクトを立ち上げ、日々、部材の納期を調整

営業活動においては、お客様から受注は予定どおりいただいているが、納期については今後、調整させていただく可能性があるとのレターを発行させていただきながら日々の調整を行っている

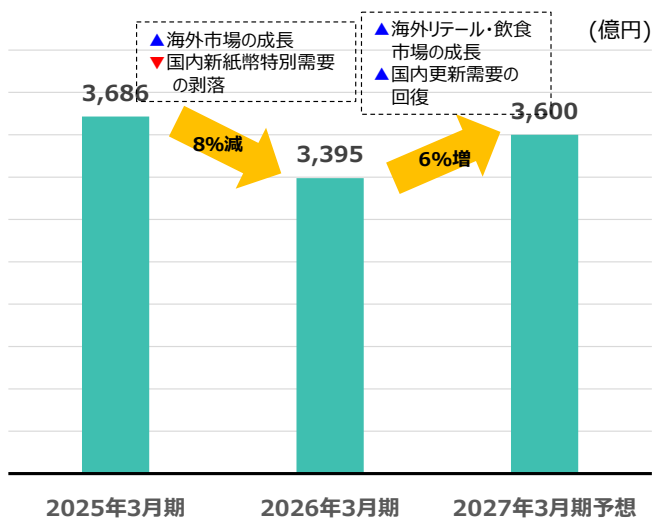


2 | **2026年3月期実績および
2027年3月期予想の概要**
取締役 IR担当 藤田 知子

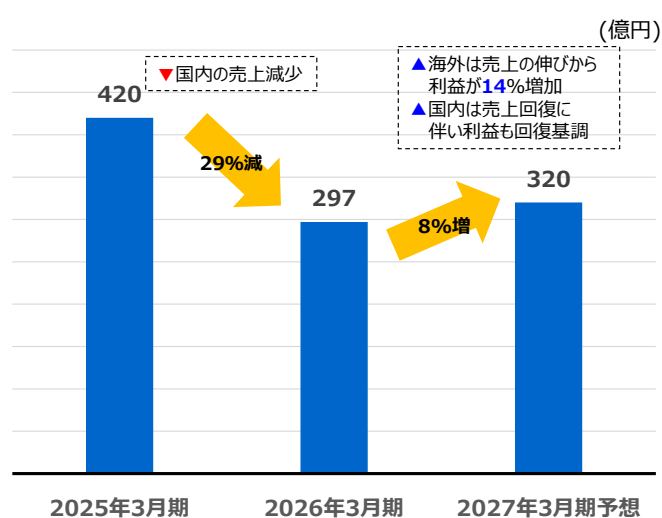
「2026年3月期実績および2027年3月期予想の概要」

説明者：取締役 IR担当役員 藤田 知子

売上収益



営業利益



「連結概要」

3カ年を横に並べ、2025年3月期、2026年3月期、2027年3月期の予想を比較し概要を説明
 今期から全て国際会計基準で公表。

左側) 売上収益 3期分

2025年3月期は、国内の新紙幣発行による需要が残っていたが、2026年3月期にはそれがなくなり減収。
 一方、次の2027年3月期には国内需要が回復し始め、また海外でも成長が期待されることから売上収益の伸びを見込む

右側) 営業利益 3期分

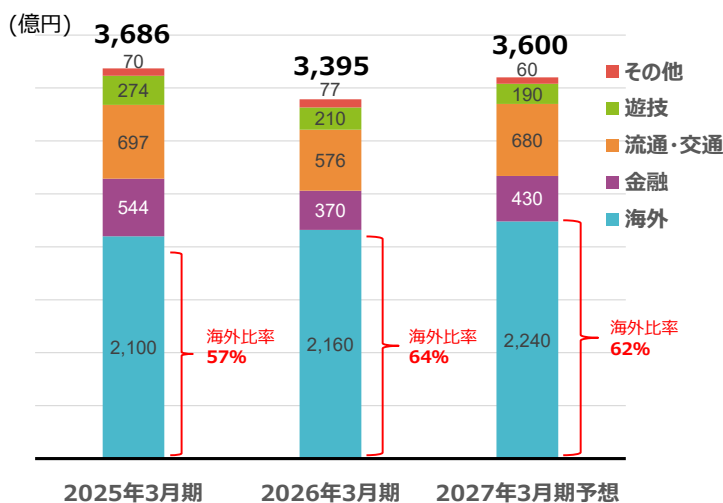
売上収益の動きを反映した動き。私どものお客様が事業を展開する市場の多くにおいて、引き続き人件費高騰や人手不足に対応する事業運営の効率化ニーズはとて強い状況

セグメント別貢献度

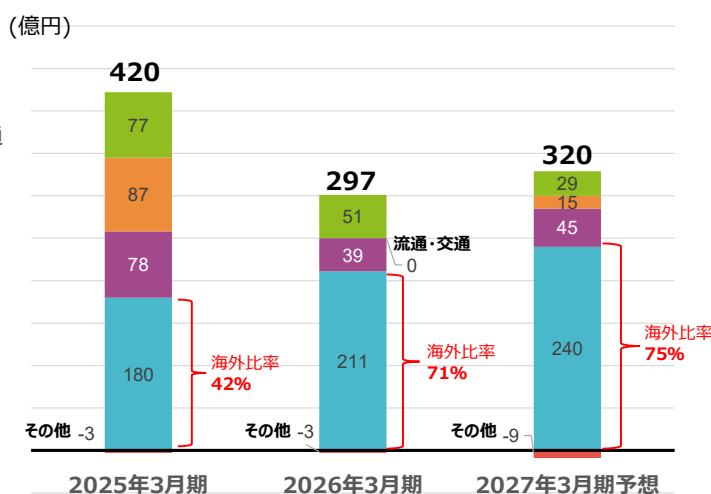
[IFRS]

GLORY

売上収益



営業利益



国内の新紙幣関連需要の期間を終え、**海外の貢献度が増加傾向に**

決算ダイジェスト

企業価値向上への取り組み

FY2025業績およびFY2026予想

データセクション

27

「セグメント別貢献度」

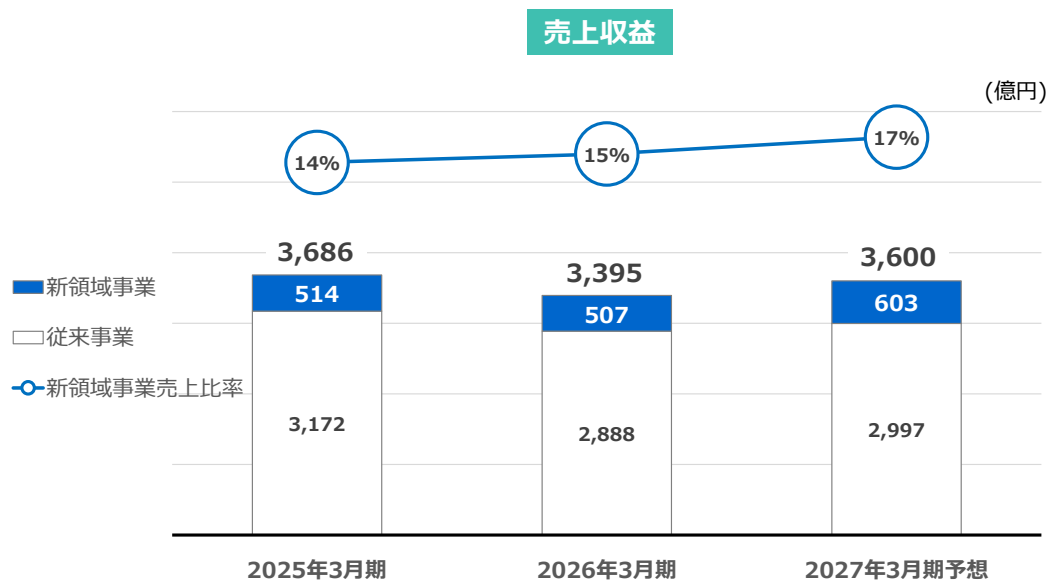
セグメント別の3年分の売上収益と営業利益（IFRS）

2024年3月期、2025年3月期については、国内の新紙幣発行に伴う需要により、国内セグメントの部分が增加。新紙幣発行に関する需要がなくなった現在、海外セグメント（水色）が占める割合が増加傾向
（海外市場の動向）

売上収益では2026年3月期で64%、営業利益では71%の貢献。

資料6ページで原田が説明した海外の営業利益の貢献度（60%）は日本基準の概算値

当ページではIFRSで計算。海外の場合はのれん代が多いので、さらに海外の比率が大きく見える

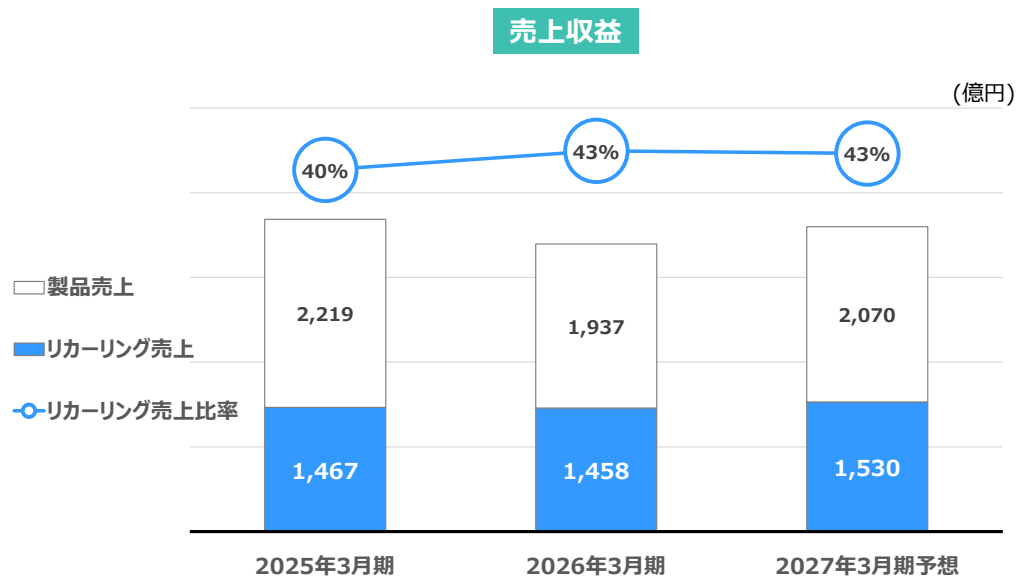


売上の伸びはこれまでのところ限られているが、各分野の市場が醸成されつつあり、その機運に乗ってマーケットリーダーのポジションを目指す

「新領域事業 売上収益と比率」

新領域事業の売上収益、売上収益比率を3年分並べたグラフ

売上収益の伸びはまだ限定的だが、各分野においてそれぞれのサービスにおける基本的なニーズは強く、市場が醸成されつつあることから、その流れを確実に捉えながら売上を伸ばし、マーケットリーダーのポジションを目指す



リカーリング売上は既に全体の4割を超えている。これを着実に伸ばして行く

「製品売上とその他売上比率」

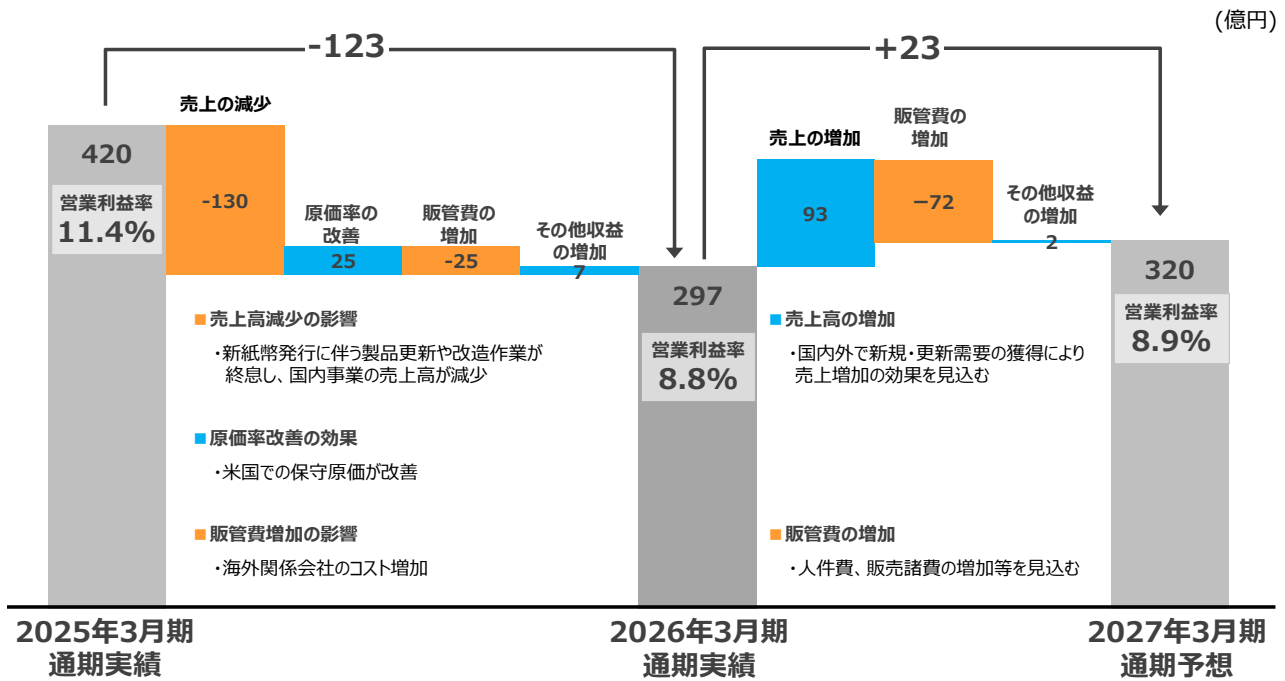
安定的なリカーリング売上をまとめたグラフ

リカーリング売上とは、保守売上やソフトウェア契約などを中心としたもの。

安定的に収益が上がるので、これを増やしたい。

急激に毎年伸びないが着実に歩みを進め、リカーリング売上の拡大をはかる

営業利益 増減要因 (2025年3月期から2027年3月期) [IFRS]



「営業利益 増減要因」

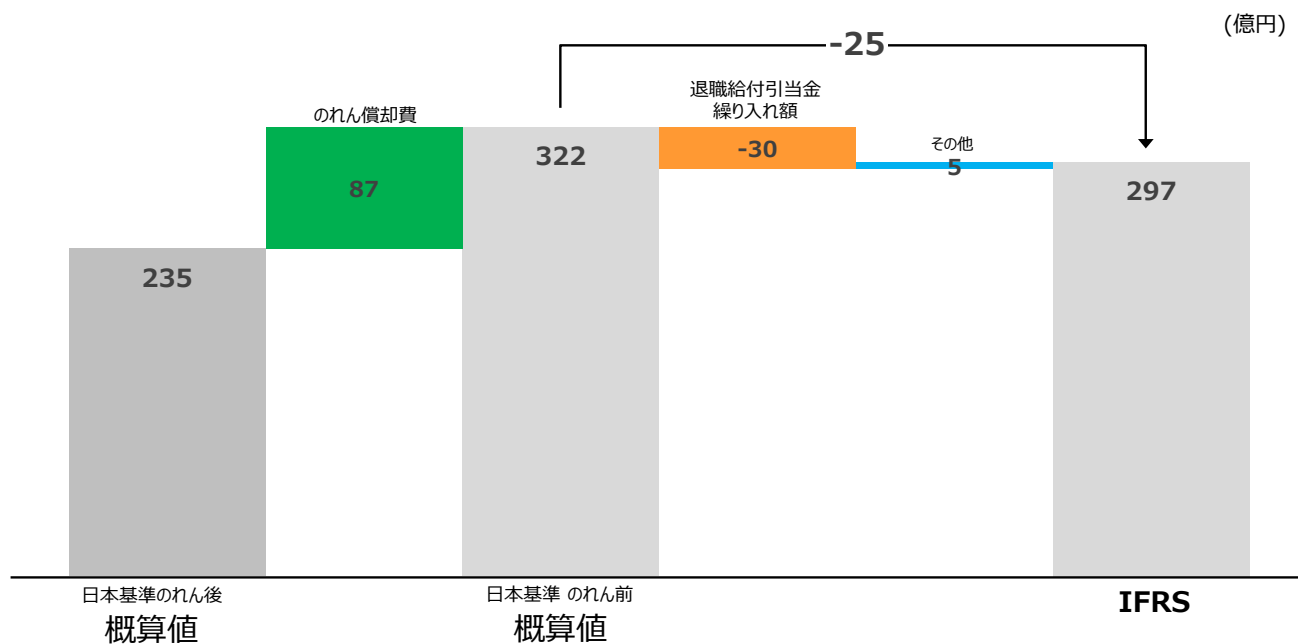
左側) 2025年3月期(420億円)から2026年3月期(297億円)への変化

前述の通り国内における新紙幣発行に伴う需要の影響が一巡して売上が減少したことが主要因となり、営業利益も減少

中間から右側) 2026年3月期(297億円)から2027年3月期(320億円)への変化

2027年3月期は国内外で新規・更新需要の獲得による売上増加による効果93億円を見込む。一方、販管費の増加による影響(一時的な構造改革、およびオフィス移転費用などを含む)-72億円、その結果、営業利益は320億円を見込む

2026年3月期 日本基準とIFRSの差（営業利益）



* 会計基準変更による売上収益への影響は、日本基準からIFRSへ移行したことによる影響は軽微です。

「2026年3月期 日本基準とIFRSの差（営業利益）」

IFRSに移行したことから、2026年3月期を用いて、日本会計基準とIFRSの営業利益の差を説明
 売上収益については、この両会計基準でほとんど差はない

一番左側のグラフの灰色の部分は2026年3月期の日本会計基準によるのれん償却後の営業利益
 （日本会計基準のものは全て概算値）

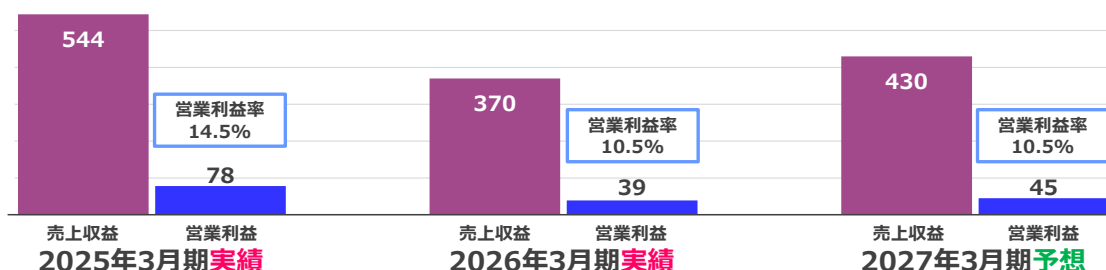
その右の緑の部分がのれん償却費。これを足し込んだ3番目の灰色のグラフ322億円が日本会計基準の
 のれん償却前営業利益の概算値

そこからIFRSへの調整が入り、まずオレンジの部分が退職給付金引当金の繰り入れ額の影響

（IFRSでは、年金資産運用による利益が想定を上回った場合でも、日本会計基準とは異なり、それを利益
 として積むことはできない）

その後、微調整があり最終的に一番右側のIFRSで297億円になるとなる

(億円)



2026年3月期実績の要因

- 大口需要があった前期に比べ、主要製品であるオープン出納システム、窓口用紙幣硬貨入出金機の販売が減少したため、減収となった。
- 売上減少に伴い減益となるも、コスト削減を推進し、営業利益率10%を確保した。

2027年3月期予想の背景

- 主要製品は、更新サイクルの復調に伴い、需要回復の見込み。
- 業務効率化ニーズ・厳正化ニーズを受け、現金処理機・非現金製品ともに、改刷前以上の需要を見込む。

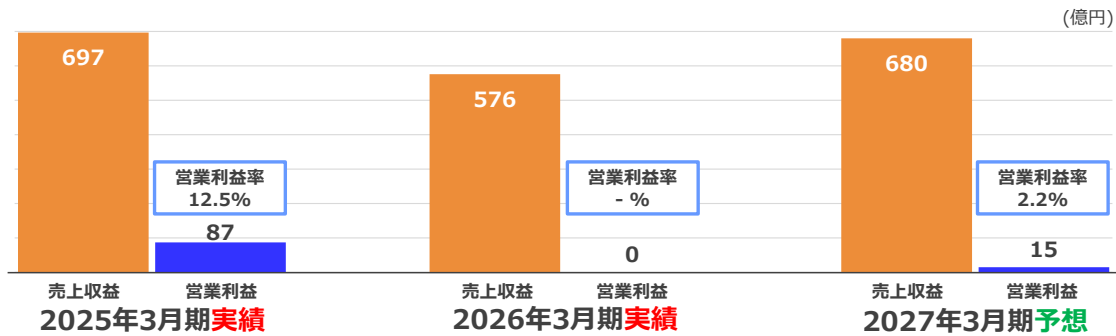
「金融市場」

(2026年3月期 実績)

大口需要のあった前期と比べ主要製品であるオープン出納システム、窓口用紙幣硬貨入出金機の販売が減少したため減収。それに伴い減益となったが、コスト削減等により営業利益率10%を確保
この結果、売上収益は370億円、営業利益は39億円

(2027年3月期 予想)

更新サイクルの復調に伴い需要回復を見込む
また、事業効率化ニーズ・厳正化ニーズを受け、現金処理機・非現金製品ともに新紙幣需要前以上の販売を見込む



2026年3月期実績の要因

- 新紙幣発行需要の反動により、製品・サービスの販売が減少したことに伴い、減収減益。
- 新領域事業における先行投資および子会社化したグループ会社の減損が利益を押し下げた。

2027年3月期予想の背景

- フロント向けについては、セルフ化需要に対応したレジつり銭機、セルフオーダーキオスクなどの販売の拡大を見込む。
- バックオフィス向けについては、現金管理の効率化を促進する入出金機の販売拡大を見込む。
- 新領域事業は、販売体制の強化と共に市場開拓を進め採算性改善を図る。

「流通・交通市場」

(2026年3月期 実績)

新紙幣需要の反動により製品・サービスの販売が減少し減収減益

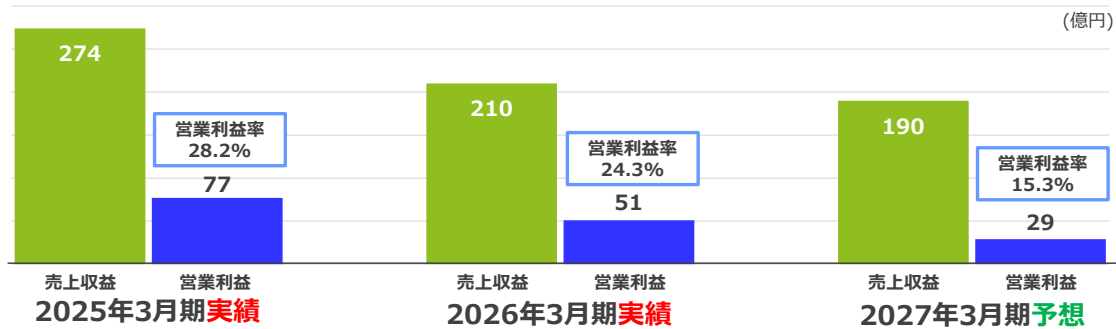
新領域事業に関する先行投資、また子会社化したグループ会社の減損も利益押し下げ要因

(2027年3月期 予想)

フロント向け製品は、セルフ化需要に対応したレジつり銭、セルフオーダーキオスクなどの販売の拡大を見込む

また、バックオフィス向けは、現金管理の効率化を促進する入出金機の販売拡大を見込む。

新領域事業については、販売体制の強化とともに市場開拓を進めて採算性改善を図る



2026年3月期実績の要因

- 新紙幣対応により高水準であった前期に比べ、主要製品のカードシステム、および周辺機器の販売、また、保守売上が減少。
- スマート遊技機の導入の鈍化の影響も受けた。
- 営業利益については、上記の売上減少を受け、減益となった。

2027年3月期予想の要因

- スマート遊技機は、一定程度普及が進み導入が一巡しつつあることから、カードシステムの販売は鈍化を見込む。収益性の維持が課題。
- 集客力のある遊技台の発売有無によって、業績が左右される見通しであり、人気機種 of 導入が進む場合にはカードシステム販売の伸長に期待。

「遊技市場」

(2026年3月期 実績)

新紙幣対応により高水準であった前期に比べ主要製品のカードシステムおよび周辺機器の販売、保守売上が減少。これを受け営業利益も減少

(2027年3月期 予想)

スマート遊技機は一定程度普及が進み、導入が一巡。カードシステムの販売は鈍化を見込む
スマートパチンコに関する需要を取り込むとともに利益率の維持に努める

海外 構造概要

GLORY

市場	米州	欧州	アジア
金融	GGG	GGG Sitrade (イタリアのみ)	GGG
リテール	GGG Flooid	GGG Flooid	GGG
飲食	Acrelec	Acrelec	Acrelec

* 主な販売エリアと製品のみについて記載。

決算ダイジェスト

企業価値向上への取り組み

FY2025業績およびFY2026予想

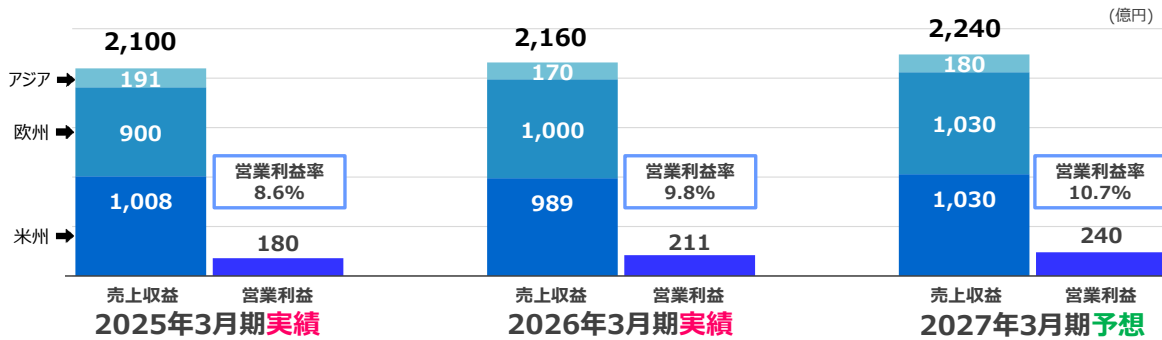
データセクション

35

「海外市場 構造概要」

※参考ページ

海外セグメントの各地域（米州・欧州・アジア）における注力3市場(金融・リテール・飲食)の担当法人を表した表



2026年3月期実績の要因

- 欧米において、セルフ化ニーズを受け、製品・サービスの販売が堅調。
- 一部の市場・顧客において、情勢の不透明さを背景に投資判断の延伸があったものの、現金処理機事業へのニーズは底堅く、売上収益・営業利益ともに前期を上回り過去最高を記録。

2027年3月期予想の要因

- 金融市場における更新需要およびリテール、飲食市場のセルフ化ニーズの拡大に伴い、製品・サービスの販売拡大を見込む。
- 業務運営の効率化を図り、固定費を削減するなどして、より重要な部分に投資を振り向けるようになる。

「海外市場」

(2026年3月期 実績)

欧米ではセルフ化ニーズを受け、製品・サービスの販売は堅調

一部の市場や顧客においては、情勢の不透明さを背景に投資判断の延伸が発生したが、現金処理機へのニーズは底堅いものがあり、売上、営業利益ともに前期を上回り過去最高を記録

(2027年3月期 予想)

金融市場における更新需要およびリテール、飲食市場のセルフ化ニーズの拡大に伴い、製品サービスの売上拡大を見込む。また、業務運営の効率化、固定費の削減を推進し、より重要な部分に投資を振り向ける

海外 地域別動向

[IFRS]

GLORY

2026年3月期実績

	市場動向	実績
米州	米国の通商政策の不透明さを受けてリテール・飲食市場の一部顧客の投資判断に延伸が見られたが、セルフ化・厳正化ニーズが底堅く続いた。	金融機関向け紙幣硬貨入出金機およびリテール市場向け紙幣硬貨入出金機の販売は順調。保守売上収益の減少により、売上収益は、前期をやや下回る989億円となった。
欧州	リテール市場における紙幣硬貨入出金機の更新需要および、新規導入顧客の拡大が続いた。	ドイツでのリテール向け紙幣硬貨入出金機の更新、イタリアでの金融機関向け紙幣硬貨入出金機の販売好調等がけん引し、売上収益は過去最高である1,000億円となった。
アジア	東南アジアにおいて市場拡大に足踏みがみられたことに加え、前期に日本でのセルフサービスキオスクの導入が一巡した。	アクレック社の販売が想定を下回ったため、売上収益は、前期を下回る170億円となった。

2027年3月期見込み

	市場動向	見込み
米州	中米地域における現金管理の厳正化ニーズの高まりを受け、旺盛な引き合いを見込む。アメリカでは、関税の違法判決を受け、不透明感の払しょく投資意欲の回復を予想。	リテール市場フロント向け製品を中心に販売が伸び、売上収益で前期比4.1%の成長を見込む。
欧州	リテール市場向け更新商談、新規導入が継続する。	リテール市場バックオフィス向け製品の販売が伸びるとともに、保守収益も増加し、前期比2.9%の成長を見込む
アジア	シンガポールでのリテール市場向け製品および香港・シンガポール・マレーシアでの金融機関向け製品の順調な販売を見込む。	リテール市場フロント向け製品を中心に販売が伸び、売上収益は前期比5.6%の成長を見込む。

決算ダイジェスト

企業価値向上への取り組み

FY2025業績およびFY2026予想

データセクション

37

「海外市場 地域別動向」

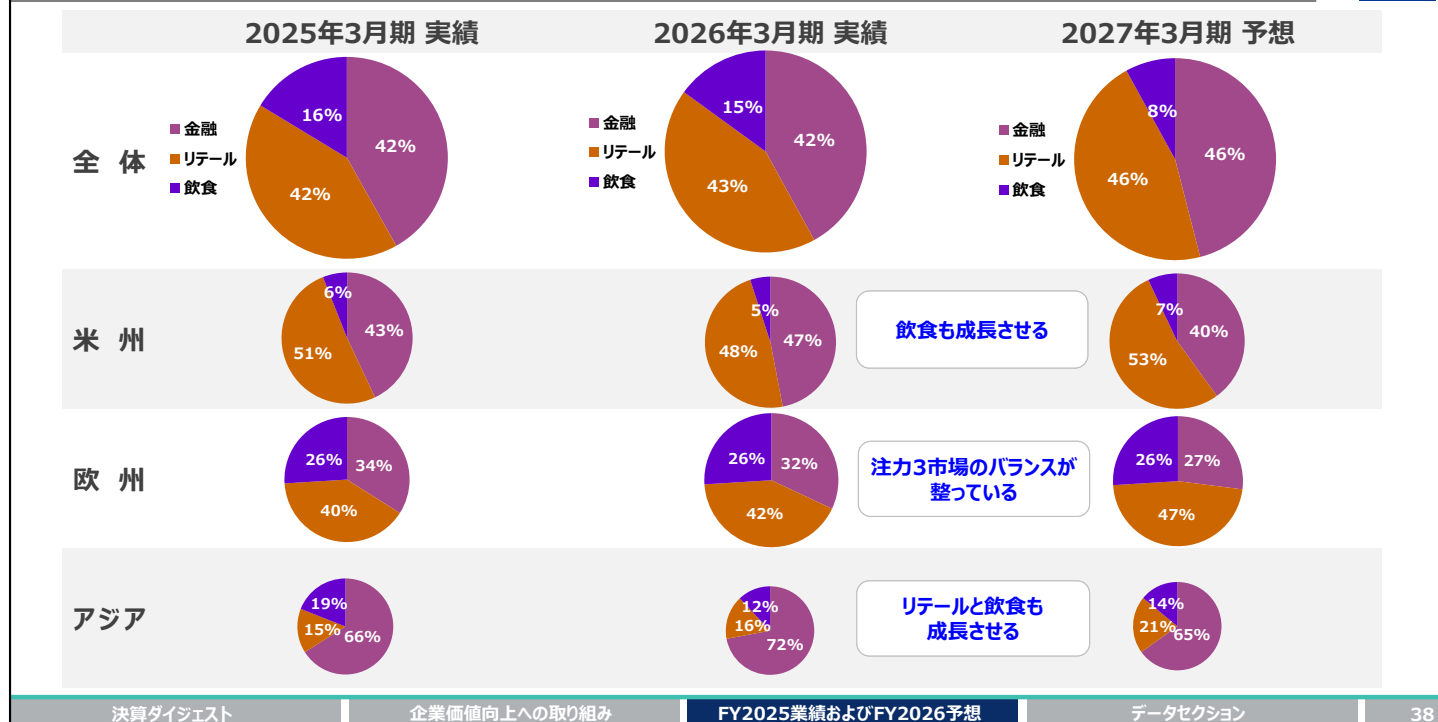
地域別の市場動向と、それに伴う実績見込み

(説明は省く)

海外 売上収益地域別比率

[IFRS]

GLORY



決算ダイジェスト

企業価値向上への取り組み

FY2025業績およびFY2026予想

データセクション

38

「海外市場 売上収益地域別比率」

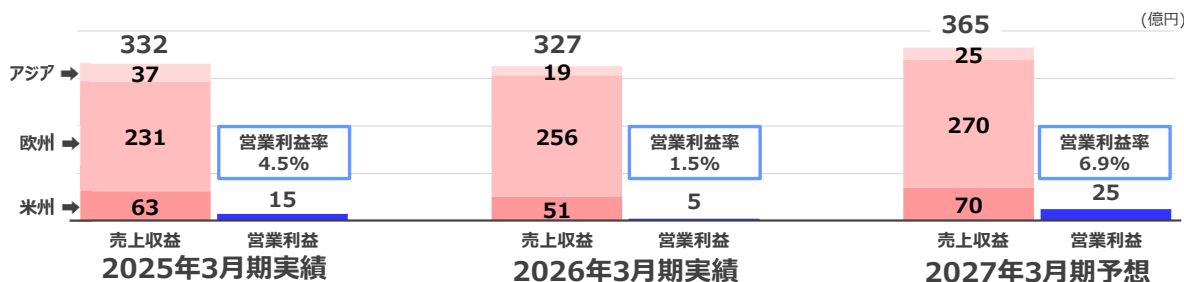
地域別の市場別売上比率を示す

期間は2005年3月期実績から2027年3月期予想までの3期

縦軸は上段から海外全体、米州、欧州、アジアで区分

上から3段目の欧州は売上収益比率が大体同じ分量。金融・リテール・飲食のバランスがとれている

2段目の米州は、飲食の部分が小さく、金融・リテールに頼っている状況。米州の飲食市場は大きく成長が期待できるので、飲食の存在を高めていき米州の円グラフの大きさ自体を大きくしていきたい



2026年3月期実績の要因

- 売上収益については、一部顧客の投資判断延伸等により、当初予想を下回った。
- この影響で、営業利益も減少。
- 100%子会社化及び経営トップ交代により、ガバナンスを強化。

2027年3月期予想の要因

- 主要顧客へのキオスク販売拡大を図る。
- 既存店舗にも導入可能なドライブスルー／詰め間違い防止システム等の販売拡大も継続。

「海外市場 アクレック」

（2026年3月期 実績）

売上収益は327億円、営業利益が5億円となり前期より減収減益

特に米州で一部の顧客に投資判断の延伸が発生し売上が当初予想を下回る

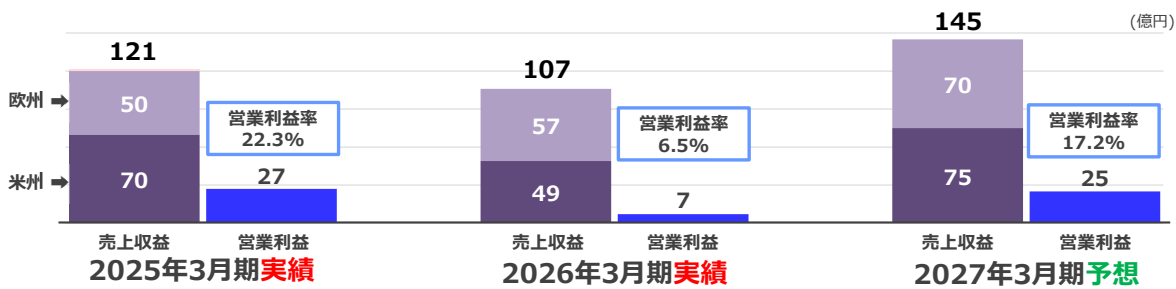
また、2025年の秋にアクレック社の残り20%の株式を買い取り、100%子会社化。ガバナンスを強化

（2027年3月期 予想）

主要顧客へのキオスク等の販売を拡大。

また、既存店舗にも導入可能なドライブスルーや詰め間違い防止システム等のソリューションの販売も継続

人手不足や人件費の高騰を理由とする飲食店舗効率化のニーズは引き続き強く、市場のトレンドは変わっていない



2026年3月期実績の要因

- 情勢の不透明さを背景とした投資判断延伸により、新規顧客の獲得が伸び悩み、当初予想に達せず。米州では、前期のソフトウェア一括販売の反動により減収。
- 売上収益の減少を受け、営業利益も減少。

2027年3月期予想の要因

- 既存顧客の維持を図ると共に、新たな業態の開拓に向けた投資により、新規顧客の獲得に注力。
- アクレック社のキオスクやグローリーの通貨処理機との一括販売による機能拡充を追求。

「海外市場 フルイド」

(2026年3月期 実績)

売上収益は107億円、営業利益は7億円となり、前期より減収減益

米国などの情勢の不透明さを背景とした顧客の投資判断の延伸により、新規顧客の獲得が伸び悩み
また、米州では前期にソフトウェアの一括販売があり、その反動で減収となる

売上収益の減収により、営業利益も減少

(2027年3月期 予想)

売上収益は145億円、営業利益は25億円を予想

既存顧客の維持を図るとともに、新たな業態の開拓に向けた投資により、新規顧客の獲得に注力

【短信で定められている定義】

$$\frac{\text{配当総額}}{\text{自己資本 相当}} = \frac{61.56 \text{ 億円}}{[(2,054+2,179)/2] \text{ 億円}} = \frac{61.56 \text{ 億円}}{2,117 \text{ 億円}} = 2.9\%$$

IFRS「親会社の所有者に帰属する持ち分合計」の期初・期末平均

【グローリーの定義】

$$\frac{\text{配当総額}}{\text{株主資本}} = \frac{61.56 \text{ 億円}}{[(2,054-9)+(2,179-154)/2] \text{ 億円}} = \frac{61.56 \text{ 億円}}{2,035 \text{ 億円}} = 3.03\%$$

「2026年3月期 DOE」

2026年3月期の株主資本配当率(DOE) は利益配分に関する基本方針の通り3%以上を目標とした

（決算短信で定められている定義）

決算短信では株主資本配当率(DOE) は2.9%と記載
 決算短信の規則で計算する数値は分母を自己資本に統一
 自己資本で計算すると2.9%となる

（グローリーの定義）

分母が株主資本で、この計算式では3.0%で目標とする3%以上を達成



3 | データセクション

3期分 P&L

[IFRS]

GLORY

億円	2025年3月期		2026年3月期				2027年3月期			
	実績	売上収益 比率	実績	売上収益 比率	前期比		予想	売上収益 比率	前期比	
					増減額	増減率			増減額	増減率
売上収益	3,686	100.0%	3,395	100.0%	-291	-7.9%	3,600	100.0%	+205	+6.0%
営業利益	420	11.4%	297	8.8%	-123	-29.3%	320	8.9%	+23	+7.6%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	245	6.6%	153	4.5%	-92	-37.6%	200	5.6%	+47	+30.0%

為替 レート	米ドル	153 円	151 円	150 円
	ユーロ	164 円	175 円	170 円

3期分 セグメント別

[IFRS]

GLORY

億円		2025年3月期		2026年3月期				2027年3月期			
		実績	売上構成比率	実績	売上構成比率	前期比		予想	売上構成比率	前期比	
営業利益率	営業利益率		増減額		増減率	営業利益率	増減額		増減率		
海外市場	売上収益	2,100	57%	2,160	64%	+60	+2.9%	2,240	62%	+80	+3.7%
	営業利益	180	8.6%	211	9.8%	+31	+17.2%	240	10.7%	+29	+13.7%
金融市場	売上収益	544	15%	370	11%	-174	-32.0%	430	12%	+60	+16.2%
	営業利益	78	14.5%	39	10.5%	-39	-50.0%	45	10.5%	+6	+15.4%
流通・交通市場	売上収益	697	19%	576	17%	-121	-17.4%	680	19%	+104	+18.1%
	営業利益	87	12.5%	0	-	-87	-	15	2.2%	+15	-
遊技市場	売上収益	277	8%	210	6%	-67	-24.2%	190	5%	-20	-9.5%
	営業利益	77	27.9%	51	24.3%	-26	-33.8%	29	15.3%	-22	-43.1%
その他	売上収益	70	2%	77	2%	+7	+10.0%	60	2%	-17	-22.1%
	営業利益	-3	-	-3	-	0	-	-9	-	-6	-
合計	売上収益	3,686	100%	3,389	100%	-297	-8.1%	3,600	100%	+211	+6.2%
	営業利益	420	11.4%	297	8.8%	-123	-29.3%	320	8.9%	+23	+7.7%
為替レート	ドル	153 円		151 円		2 円の円高		150 円		1 円の円高	
	ユーロ	164 円		175 円		11 円の円安		170 円		5 円の円高	

決算ダイジェスト

企業価値向上への取り組み

FY2025業績およびFY2026予想

データセクション

44

海外地域別売上収益

[IFRS]

GLORY

億円	通 期								
	2025年3月期	2026年3月期	前期比		米ドルベース 増減率	2027年3月期 予想	前期比		米ドルベース 増減率
			増減額	増減率			増減額	増減率	
米州	1,008	989	-19	-1.9%	-0.7%	1,030	+41	+4.1%	+4.6%
内 GGS	875	889	+14	+1.6%	+2.8%	885	-4	-0.4%	+0.1%
内 Acrelec	63	51	-12	-19.0%	-17.9%	70	+19	+37.3%	+37.1%
内 Flooid	70	49	-21	-30.0%	-28.4%	75	+26	+53.1%	+50.9%
欧州	900	1,000	+100	+11.1%	+12.5%	1,030	+30	+3.0%	+3.5%
内 GGS	453	487	+34	+7.5%	+8.8%	510	+23	+4.7%	+5.5%
内 Sitrade	166	200	+34	+20.5%	+22.2%	180	-20	-10.0%	-9.9%
内 Acrelec	231	256	+25	+10.8%	+12.1%	270	+14	+5.5%	+5.9%
内 Flooid	50	57	+7	+14.0%	+15.6%	70	+13	+22.8%	+21.8%
アジア	191	170	-21	-11.0%	-10.0%	180	+10	+5.9%	+6.2%
内 GGS	154	151	-3	-1.9%	-1.3%	155	+4	+2.6%	+3.6%
内 Acrelec	37	19	-18	-48.6%	-45.9%	25	+6	+31.6%	+25.9%
合 計	2,100	2,160	+60	+2.9%	+4.1%	2,240	+80	+3.7%	+4.2%
内 GGS	1,481	1,526	+45	+3.0%	+4.2%	1,550	+24	+1.6%	+2.2%
内 Sitrade	166	200	+34	+20.5%	+22.2%	180	-20	-10.0%	-9.9%
内 Acrelec	332	327	-5	-1.5%	-0.1%	365	+38	+11.6%	+12.0%
内 Flooid	121	107	-14	-11.6%	-10.1%	145	+38	+35.5%	+35.3%
為替 レート	ドル	153 円	151 円	2 円の円高		150 円	1 円の円高		
	ユーロ	164 円	175 円	11 円の円安		170 円	5 円の円高		

決算ダイジェスト

企業価値向上への取り組み

FY2025業績およびFY2026予想

データセクション

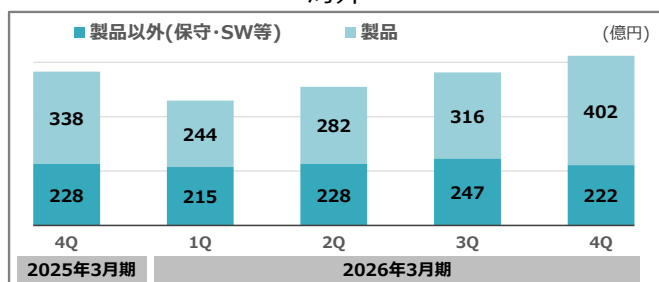
45

セグメント別売上高 四半期推移グラフ

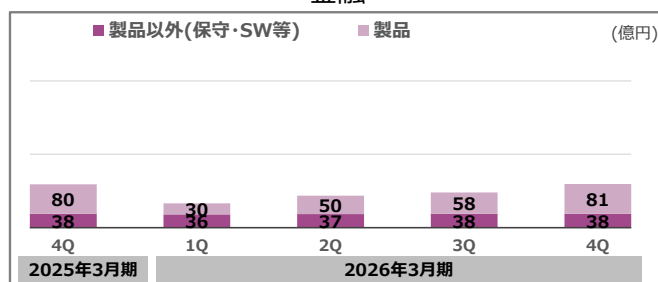
[日本会計基準]

GLORY

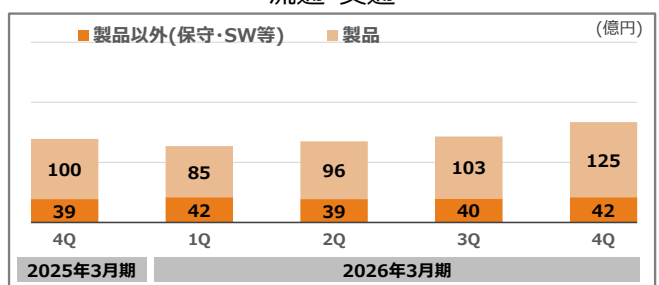
海外



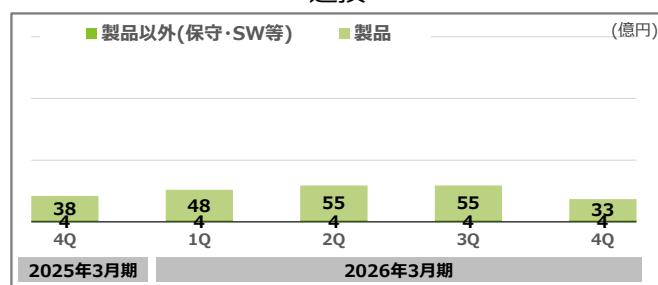
金融



流通・交通



遊技



海外市場 四半期推移

[IFRS]

GLORY

億円	2026年3月期					
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	通期	
米州	208	245	234	302	989	
内 GGS	185	217	206	281	889	
内 Acrelec	10	11	17	13	51	
内 Flooid	13	17	11	8	49	
欧州	214	230	287	269	1,000	
内 GGS	102	120	133	132	487	
内 Sitrade	47	44	58	51	200	
内 Acrelec	54	57	79	66	256	
内 Flooid	11	9	17	20	57	
アジア	36	37	44	53	170	
内 GGS	31	33	34	53	151	
内 Acrelec	5	4	10	0	19	
合計	459	512	564	625	2,160	
内 GGS	317	370	373	466	1,526	
内 Sitrade	47	44	58	51	200	
内 Acrelec	70	72	106	79	327	
内 Flooid	25	26	27	29	107	
為替レート	ドル	145 円	147 円	154 円	157 円	151 円
	ユーロ	164 円	172 円	179 円	184 円	175 円

決算ダイジェスト

企業価値向上への取り組み

FY2025業績およびFY2026予想

データセクション

47

セグメント別 四半期推移

当社試算に基づく概算値
 <日本基準>

GLORY

億円		2026年3月期				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	通期
海外市場	売上高	459	511	564	616	2,152
	営業利益	3	18	38	60	120
金融市場	売上高	66	87	96	120	371
	営業利益	2	9	13	18	43
流通・交通市場	売上高	128	135	144	168	576
	営業利益	2	2	6	8	19
遊技市場	売上高	52	60	59	42	215
	営業利益	14	17	17	6	55
その他	売上高	15	20	19	18	74
	営業利益	-1	-1	0	0	-3
合計	売上高	723	815	885	965	3,389
	営業利益	20	47	75	91	234
為替レート	ドル	145 円	147 円	154 円	157 円	151 円
	ユーロ	164 円	172 円	179 円	184 円	175 円

決算ダイジェスト

企業価値向上への取り組み

FY2025業績およびFY2026予想

データセクション

48

<注意事項>

1. 本資料に記載されている、業績見通し等の将来に関する情報は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束するものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。そのような要因としては、主要市場の経済状況および製品需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行等の変更などが含まれます。
また、本資料の将来の見通しに関する記述につきましては、法律上その手続きが必要となる場合を除き、事前予告なく変更することもありますので、ご了承ください。
2. 当資料の増減率、構成比は、千万円以下を切り捨てた数値を基に算出しており、決算短信の増減率とは異なる場合があります。